

Case Study 2

株式会社 深井製作所

災害に強い企業を目指して・・・

Data

対象事業：自動車部品の製造業務

対象リスク：操業地域にて大規模地震発生

被災シナリオ：(冬場の) 平日の夕方5時に震度6弱の地震が発生

事業継続策：重要顧客に対する供給を継続する為、各部署が決めた事のもと行動する



企業名 株式会社 深井製作所

代表者名 深井 孟

Q 御社の事業内容は？

自動車板金部品の一貫製造メーカーとして、自動車部品・部材の研究・開発・解析から、金型の設計・製作、プレス・溶接・組立加工まで、車体構造部品、自動車板金部品をメインに生産しています。

Q 今回BCP策定に取り組まれた理由を教えてください。

東日本大震災以降、顧客からBCPの策定を求められていました。又、BCPを策定し、運用する事で災害時等による緊急時においても事業が継続出来る様に準備しておくことで「顧客からの信用」「従業員の安全と雇用」「地域経済の活力」を守り、企業としての社会的責任や信頼の観点から、経営力を強化するために策定に取り組みました。

Q 策定したBCPの主な内容(ポイント)を教えてください。

企業の存続と従業員の安全・雇用を守る為、①重要顧客に対する供給責任を果たすべく、災害時に各部署(災害対策班)が早期復旧のために、どの様に行動すべきか?②従業員の安全を確保するための行動基準や安否確認方法について、現状の社内マニュアル類と整合を図りながら具体的に決め、万が一の場合でも確実に運用できる体制を全社的に構築するとしたことです。

Q BCP策定によって得られた気づきはありましたか?

当社にて運用しているT SやI S Oのマニュアルに記載されている「緊急事態実施要領」や「緊急

事態対応規定」では災害時に誰が何をするのか、また、自分はどの様に行動しなければならないのかが具体的になっておらず曖昧な部分が多いことがわかりました。

Q 今後の課題と方向性について教えてください。

今回、BCPの初版を策定しましたが、BCPは策定して終わりでは無く、実際に災害が起こった際、BCPで決めた事が活用できるよう、定期的な訓練の実施や内容の見直しについて、主管部署を決め、全社的に運用し、継続していきます。

Q BCPを策定した感想をお願いします。

今回、BCPを策定したことで、今まであまり気にしていなかった自社のボトルネック(弱点)を見つけることができました。又、その弱点に対する対応策を事前に検討しておくことで、災害時の安全確保と早期復旧に向けた備えが多少構築できたと思いますので、今後も継続的に訓練や見直しを行い、更なるレベルアップを図ってまいります。

商号	株式会社 深井製作所
本社所在地	栃木県足利市大月町 465-3
設立	昭和 13 年
資本金	7,000 万円
従業員数	497 名
代表者	深井 孟
事業内容	自動車部品の開発・設計・製造
URL	http://www.fukai.co.jp/